

**今日のトピック** **メキシコの金融政策：金利据え置き（2019年6月）**

# インフレ期待高く、高水準の金利がペソを支える

**ポイント1**

## 8.25%に据え置き 市場の予想通り

- メキシコ銀行（中央銀行、以下、メキシコ中銀）は、6月27日の金融政策決定会合で、政策金利を8.25%に据え置くことを決定しました。据え置きは4会合連続で市場の予想通りでした。1名が0.25%の利下げに投票しました。

**ポイント2**

## 足許の物価上昇率は低下 景気減速が懸念される

- 声明では、米国による通商問題が解決しておらず先行き不透明感が強い中で、中長期のインフレ見通しは依然として高水準にあるため、政策金利を据え置くと述べています。金利据え置きは市場予想通りだったため、メキシコペソは小動きとなっています。
- メキシコのインフレ率は、4月、5月は前年同月比4%台でしたが、6月前半には前年同期比+4.0%と、メキシコ中銀の目標範囲（3%±1%）の上限付近で推移しています。一方で、1-3月期実質GDP成長率は前年比+1.2%、前期比▲0.2%となり、国内経済の減速が懸念されています。

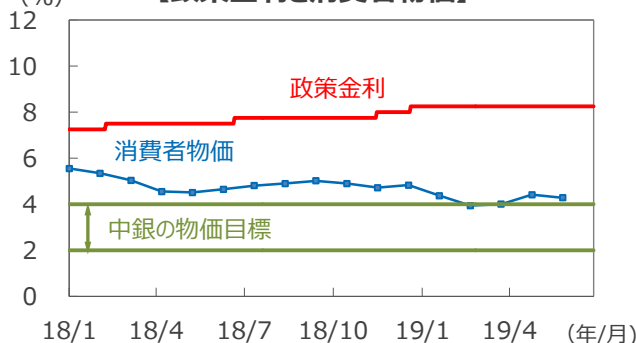
**今後の展開**

## 利下げ観測が重石も、 高水準の金利がペソを支える

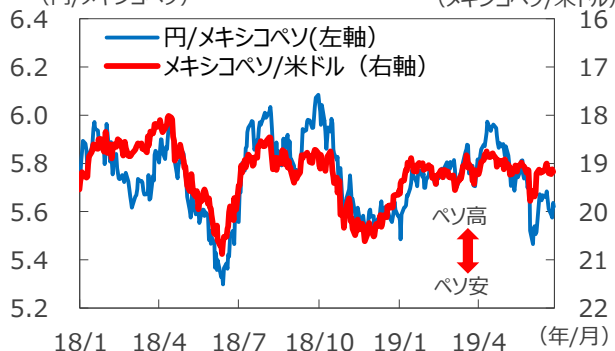
- 米連邦準備制度理事会（FRB）や欧州中央銀行（ECB）の金融緩和姿勢を背景に、市場の一部では、メキシコ中銀が年内に利下げを行うとの見方が出ています。また、米国との不法移民問題や通商問題などの影響もあり景気減速が明らかになれば、利下げを支持する声がさらに高まるとみられます。この場合は利下げ観測がメキシコペソ相場の重石になると考えられます。
- 一方で、世界的な金利低下環境において利回りを求める動きから、メキシコの相対的な金利の高さが注目され、メキシコペソの支えになるとみられます。

**ここも  
チェック!**

2019年6月20日 **米国の金融政策：ハト派姿勢を強調（2019年6月）**  
2019年6月 3日 **メキシコへの追加関税と米国株式市場**

**【政策金利と消費者物価】**


(注) 政策金利は2018年1月1日～2019年6月27日。  
消費者物価は前年同月比、2018年1月～2019年5月。  
(出所) Bloomberg L.P.、メキシコ中央銀行のデータを基に  
三井住友DSアセットマネジメント作成

**【メキシコペソ】**


(注1) データは2018年1月2日～2019年6月27日。  
(注2) メキシコペソ/米ドルは逆目盛。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。